

## ⑰施設ケア

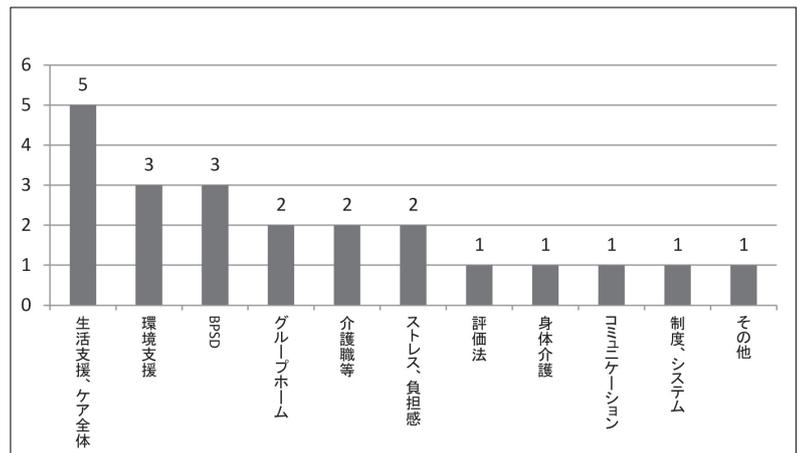
### ⑰-1 他の研究内容との重複

施設ケアに関連する研究14件のうち重複している研究内容では、最も多いのは「生活支援、ケア全体」であり、5件(35.7%)となっている。次いで、「環境支援」、「BPSD」がともに3件(21.4%)となっており、さらに「介護職等」、「ストレス、負担感」が2件(14.3%)と続いている。

表⑰-1 他の研究内容との重複件数 (N=14)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
生活支援、ケア全体	5	35.70%
環境支援	3	21.40%
BPSD	3	21.40%
グループホーム	2	14.30%
介護職等	2	14.30%
ストレス、負担感	2	14.30%
評価法	1	7.10%
身体介護	1	7.10%
コミュニケーション	1	7.10%
制度、システム	1	7.10%
その他	1	7.10%

図⑰-1 他の研究内容との重複状況 (N=14)



### ⑰-2 研究方法の傾向

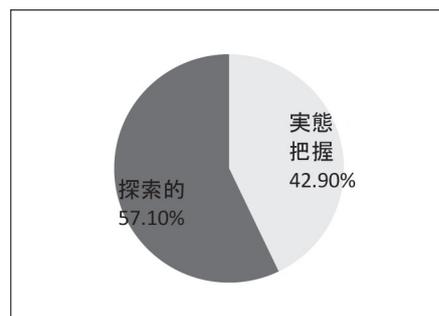
#### ⑰-2-1 研究タイプ1の傾向

施設ケアに関する研究14件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が8件(57.1%)であり、「実態把握研究」が6件(42.9%)となっている。「探索的研究」の方がやや多いことがうかがえる。

表⑰-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	6	42.90%
探索的	8	57.10%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	14	100.00%

表⑰-2-2 研究タイプ1



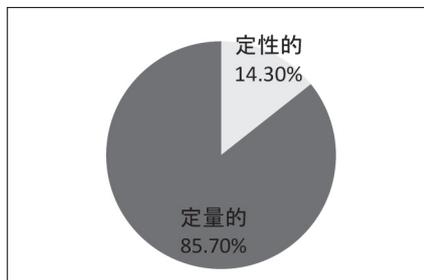
### ⑰-2-2 研究タイプ2の傾向

施設ケアに関する研究14件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」は12件(85.7%)であり、「定性的研究」は2件(14.3%)となっている。

表⑰-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	2	14.30%
定量的	12	85.70%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	14	100.00%

図⑰-2-2 研究タイプ2



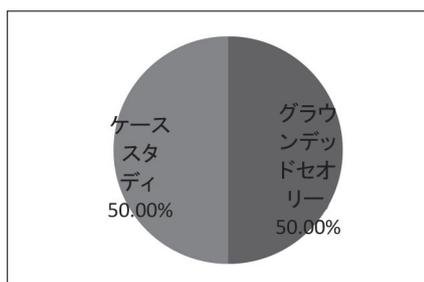
### ⑰-2-3 定性的研究の種類

定性的研究を用いた2件のうち、その研究種類は「グラウンデッドセオリー」、「ケーススタディ」がそれぞれ1件(50.0%)となっている。

表⑰-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	0	0.00%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	1	50.00%
ケーススタディ	1	50.00%
その他	0	0.00%
合計	2	100.00%

表⑰-2-3 定性的研究の種類



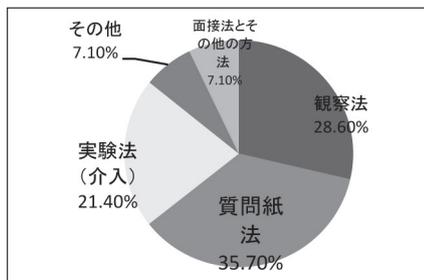
### ⑰-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、最も多いのは「質問紙法」であり、5件(35.7%)となっている。次いで、「観察法」であり、4件(28.6%)となっている。さらに「実験法(介入)」が3件(21.4%)と続いている。

表⑰-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	4	28.60%
面接法	0	0.00%
質問紙法	5	35.70%
実験法(介入)	3	21.40%
その他	1	7.10%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	1	7.10%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	14	100.00%

図⑰-2-4 研究方法



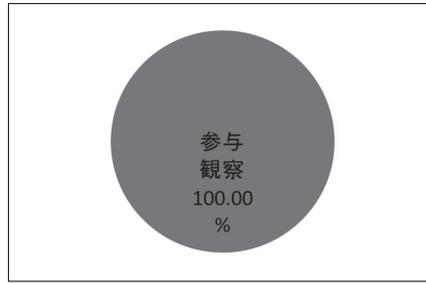
⑰-2-5 観察法の種類

観察方法を用いた研究のうち、その種類は「参与観察」のみで4件となっている。

表⑰-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	4	100.00%
非参与観察	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	4	100.00%

図⑰-2-5 観察法の種類



⑰-2-6 面接法の種類

面接法を用いた研究は1件のみであり、その種類は「不明」となっている。

表⑰-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	0	0.00%
半構造的面接	0	0.00%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
不明	1	100.00%
合計	1	100.00%

図⑰-2-6 面接法の種類



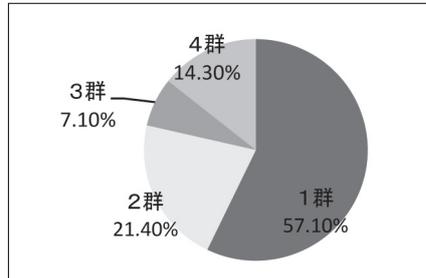
⑰-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、最も多いのは、「1群」であり、8件(57.1%)となっている。次いで「2群」が3件(21.4%)、「4群」が2件(14.3%)、「3群」が1件(7.1%)となっている。

表⑰-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	8	57.10%
2群	3	21.40%
3群	1	7.10%
4群	2	14.30%
合計	14	100.00%

図⑰-2-7 対象群数



⑰-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「その他」のみであり、14件となっている。「全国対象」はなかった。

表⑰-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	0	0.00%
その他	14	100.00%
合計	14	100.00%

図⑰-2-8 対象範囲



⑰-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

施設ケアの研究において、実施期間の平均は6件中、165.17日であり、研究地域数の平均は11件中、1.00地域である。事業所数の平均は13件中21.69事業所であり、対象人数の平均は14件中、903人となっている。

表⑰-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	6	1	360	165.17	125.236
研究地域数	11	1	1	1.00	0
事業所数	13	1	118	21.69	35.3
対象者人数 (人)	14	5	8971	903	2353.649

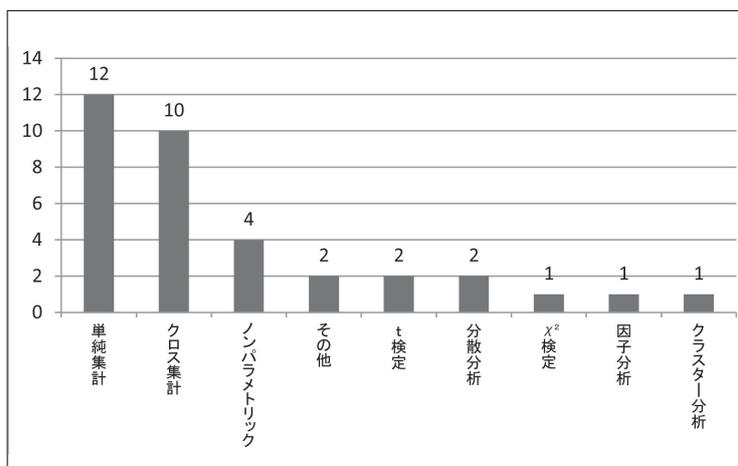
⑰-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が12件(85.7%)と最も多く、次いで「クロス集計」が10件(71.4%)となっている。さらに「ノンパラメトリック」が4件(28.6%)、「その他」、「t検定」、「分散分析」、がそれぞれ2件(14.30%)と続いている。

表⑰-2-10 分析方法の件数 (N=14)

	件数	重複割合 (%)
単純集計	12	85.70%
クロス集計	10	71.40%
ノンパラメトリック	4	28.60%
その他	2	14.30%
t検定	2	14.30%
分散分析	2	14.30%
$\chi^2$ 検定	1	7.10%
因子分析	1	7.10%
クラスター分析	1	7.10%

図⑰-2-10 分析方法の件数 (N=14)



### ⑰-3 対象者属性の傾向

#### ⑰-3-1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、16件の対象者の平均年齢は82.437歳であり、標準偏差は3.5740歳である。最大値は88.6歳、最小値は75.0歳となっている。

表⑰-3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
施設ケア	82.437	16	3.5740	75.0	88.6

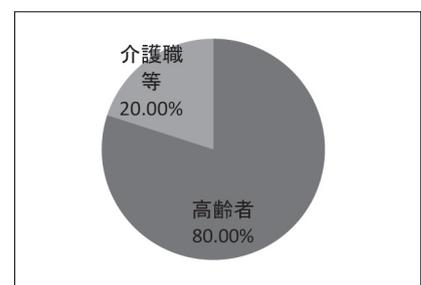
#### ⑰-3-2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「高齢者」が最も多く20件(80.0%)となっている。次いで「介護職等」が5件(20.0%)となっている。他の対象者属性はなかった。

表⑰-3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	20	0	5	0	0	25
割合	80.00%	0.00%	20.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑰-3-2 対象者属性



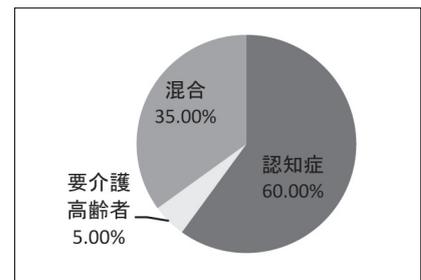
#### ⑰-3-3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者の20件の中で、高齢者属性は「認知症」が12件(60.0%)と最も多く、次いで「混合」が7件(35.0%)となっている。さらに、「要介護高齢者」は1件(5.0%)である。

表⑰-3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	12	1	0	7	20
割合	60.00%	5.00%	0.00%	35.00%	100.00%

図⑰-3-3 高齢者属性



⑰-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、高齢者属性に「認知症」がある18件全てが「不明」のみであり、他の種類についてはなかった。

表⑰-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	0	0	0	0	18	0	18
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%

図⑰-3-4 認知症種類



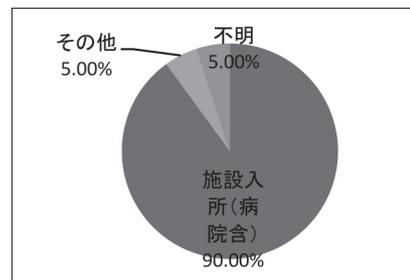
⑰-3-5 所在の傾向

所在については、最も多いのは「施設入所(病院含)」であり18件(90.0%)と多くを占めている。他に「その他」、「不明」が1件ずつ(5.0%)となっている。

表⑰-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	0	18	1	0	1	20
割合	0.00%	90.00%	5.00%	0.00%	5.00%	100.00%

図⑰-3-5 所在



### ⑰-3-6 利用サービスの傾向

利用サービスについての傾向は、「病院入院」が6件(30.0%)と最も多く、次いで、「老人ホーム」が5件(25.0%)、「グループホーム」が2件(10.0%)、「入所系サービス複数利用」、「その他」が1件(5.0%)となっている。

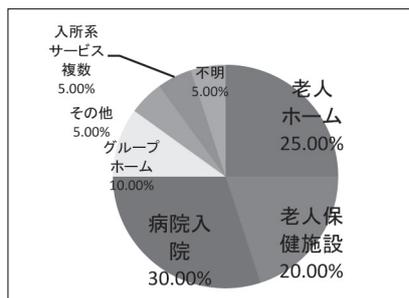
表⑰-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	0	0	0	0	5	4	6
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	25.00%	20.00%	30.00%

	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス複数利用	在宅系サービス複数利用	入所・在宅系サービス複数利用	不明	合計
件数	2	1	0	1	0	0	1	20
割合	10.00%	5.00%	0.00%	5.00%	0.00%	0.00%	5.00%	100.00%

図⑰-3-6 利用サービス



### ⑰-3-7 職員種別の傾向

職員種別について、最も多い種別は「介護職員」であり、3件(60.0%)である。次いで「介護・看護職」が2件(40.0%)となっている。

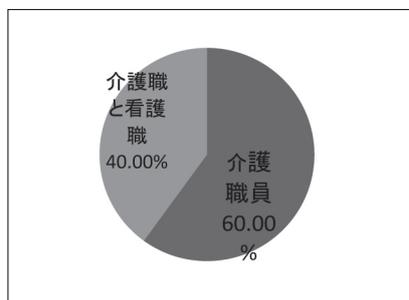
表⑰-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	3	0	0	0	0	0	0
割合	60.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

	介護・看護職	複数職種	合計
件数	2	0	5
割合	40.00%	0.00%	100.00%

図⑰-3-7 職員種別



## ⑱ デイサービス

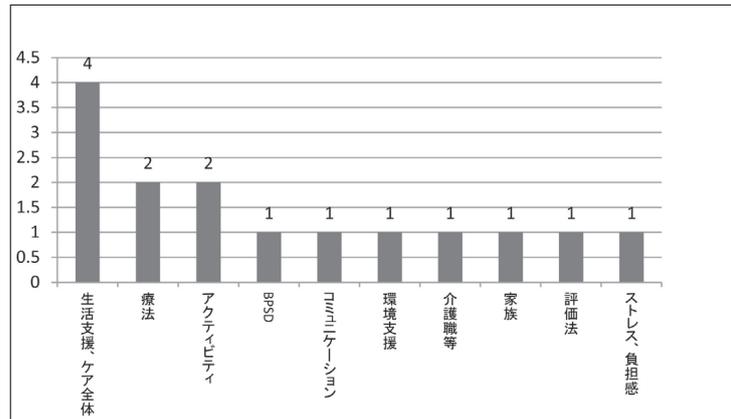
### ⑱-1 他の研究内容との重複

デイサービスに関連する研究11件のうち重複している研究内容では、「生活支援、ケア全体」が最も多く、4件(36.4%)となっている。次いで、「療法」、「アクティビティ」がともに2件(18.2%)と続いている。

表⑱-1 他の研究内容との重複件数 (N=11)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
生活支援、ケア全体	4	36.40%
療法	2	18.20%
アクティビティ	2	18.20%
BPSD	1	9.10%
コミュニケーション	1	9.10%
環境支援	1	9.10%
介護職等	1	9.10%
家族	1	9.10%
評価法	1	9.10%
ストレス、負担感	1	9.10%

図⑱-1 他の研究内容分類との重複状況 (N=11)



### ⑱-2 研究方法の傾向

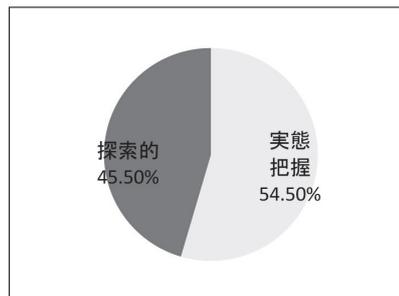
#### ⑱-2-1 研究タイプ1の傾向

デイサービスに関する研究11件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「実態把握研究」が6件(54.5%)であり、「探索的研究」は5件(45.5%)となっている。「実態把握研究」のほうがやや多いことがうかがえる。

表⑱-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	6	54.50%
探索的	5	45.50%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	11	100.00%

図⑱-2-1 研究タイプ1



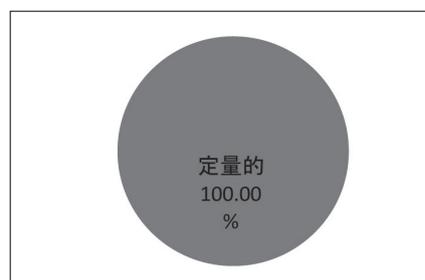
### ⑱-2-2 研究タイプ2の傾向

デイサービスに関する研究11件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」のみであり、11件すべてが「定量的研究」であった。

表⑱-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	0	0.00%
定量的	11	100.00%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	11	100.00%

図⑱-2-2 研究タイプ2



### ⑱-2-3 定性的研究の種類

定性的研究の種類において、定性的研究を用いた研究がなかったため、種類の結果は得られなかった。

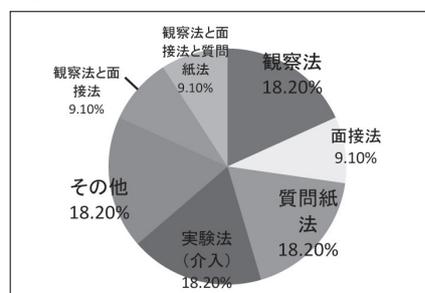
### ⑱-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、多いのは「観察法」、「質問紙法」、「実験法(介入)」、「その他」がそれぞれ2件であり、それぞれ18.2%であった。他には「面接法」、「観察法と面接法」、「観察法と面接法と質問紙法」がそれぞれ1件(9.1%)となっている。

表⑱-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	2	18.20%
面接法	1	9.10%
質問紙法	2	18.20%
実験法(介入)	2	18.20%
その他	2	18.20%
観察法と面接法	1	9.10%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	1	9.10%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	11	100.00%

図⑱-2-4 研究方法



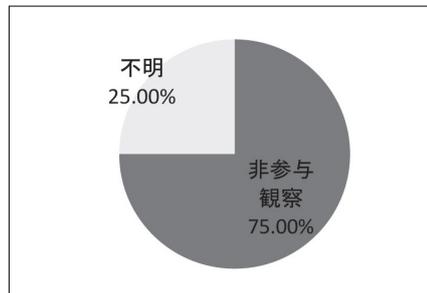
### ⑱-2-5 観察法の種類

観察方法を用いた研究4件のうち、その種類は、「非参与観察」が3件(75.0%)であり、多くが「非参与観察」となっている。他には「不明」が1件(25.0%)であった。

表⑱-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	0	0.00%
非参与観察	3	75.00%
その他	0	0.00%
不明	1	25.00%
合計	4	100.00%

図⑱-2-5 観察法の種類



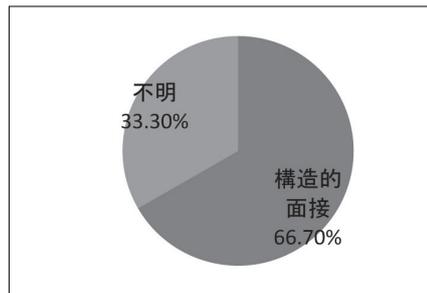
### ⑱-2-6 面接法の種類

「面接法」を用いた研究3件のうち、「構造的面接」が2件(66.7%)であり、「不明」が1件(33.3%)となっている。

表⑱-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	2	66.70%
半構造的面接	0	0.00%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
不明	1	33.30%
合計	3	100.00%

図⑱-2-6 面接法の種類



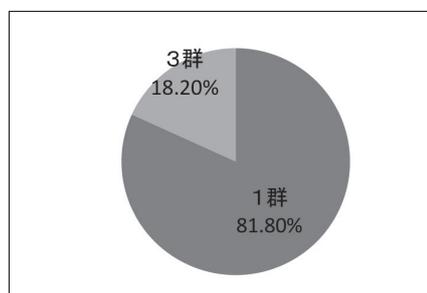
### ⑱-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、「1群」が9件(81.8%)となっており、全体の8割を超えている。他には「3群」が2件(18.2%)となっている。

表⑱-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	9	81.80%
2群	0	0.00%
3群	2	18.20%
4群	0	0.00%
合計	11	100.00%

図⑱-2-7 対象群数



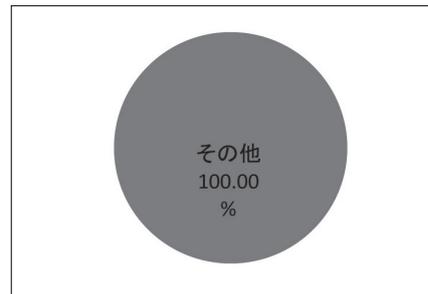
### ⑱-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「その他」のみであり、11件となっている。「全国対象」はなかった。

表⑱-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	0	0.00%
その他	11	100.00%
合計	11	100.00%

図⑱-2-8 対象範囲



### ⑱-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

デイサービスの研究において、実施期間の平均は8件中、117.37日であり、研究地域数の平均は8件中、1.63地域となっている。事業所数の平均は8件中、3.25事業所となっており、対象者人数の平均は11件中、72.73人となっている。

表⑱-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	8	4	420	117.37	134.444
研究地域数	8	1	5	1.63	1.408
事業所数	8	1	9	3.25	2.765
対象者人数 (人)	11	4	185	72.73	64.503

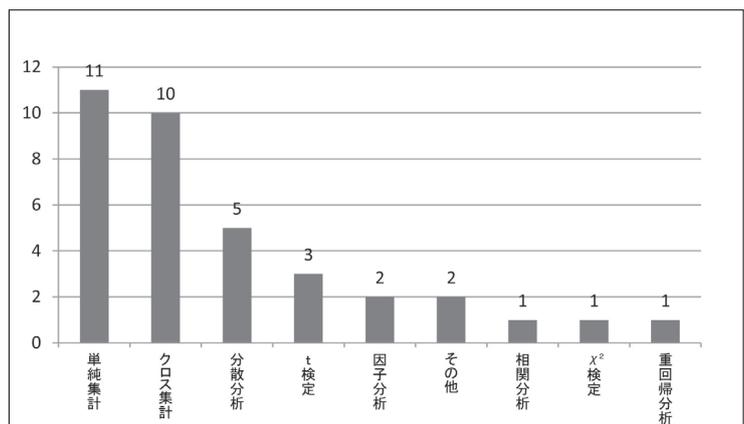
### ⑱-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が11件であり、すべての研究で用いられている。次いで、「クロス集計」が10件(90.9%)となっており、さらに「分散分析」が5件(45.5%)、「t検定」が3件(27.3%)、「因子分析」、「その他」がそれぞれ2件(18.2%)となっている。

表⑱-2-10 分析方法の件数 (N=11)

分析方法分類	件数	重複割合 (%)
単純集計	11	100.00%
クロス集計	10	90.90%
分散分析	5	45.50%
t検定	3	27.30%
因子分析	2	18.20%
その他	2	18.20%
相関分析	1	9.10%
$\chi^2$ 乗検定	1	9.10%
重回帰分析	1	9.10%

図⑱-2-10 分析方法の件数 (N=11)



⑩ - 3 対象者属性の傾向

⑩ - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、9件の対象者の平均年齢は74.944歳であり、標準偏差は15.4696歳である。最大値は83.2歳、最小値は34.1歳となっている。

⑩ - 3 - 1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
デイサービス	74.944	9	15.4696	34.1	83.2

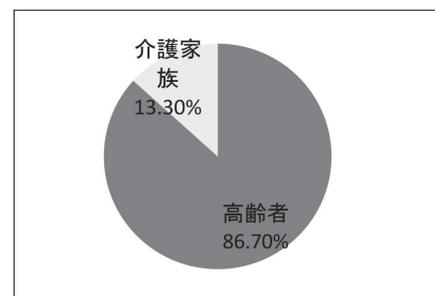
⑩ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「高齢者」が最も多く13件(86.7%)となっている。次いで「介護家族」が2件(13.3%)となっている。他の対象者属性はなかった。

表⑩ - 3 - 2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	13	2	0	0	0	15
割合	86.70%	13.30%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑩ - 3 - 2 対象者属性



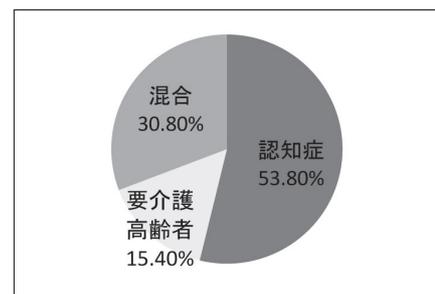
⑩ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者である13件の中で、高齢者属性は「認知症」が7件(53.8%)と最も多く、次いで「混合」が4件(30.8%)となっている。さらに、「要介護高齢者」は2件(15.4%)である。

表⑩ - 3 - 3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	7	2	0	4	13
割合	53.80%	15.40%	0.00%	30.80%	100.00%

図⑩ - 3 - 3 高齢者属性



⑱-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、高齢者属性に「認知症」がある10件において、全てが「不明」のみであり、他の種類についてはなかった。

表⑱-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	0	0	0	0	10	0	10
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%

図⑱-3-4 認知症種類



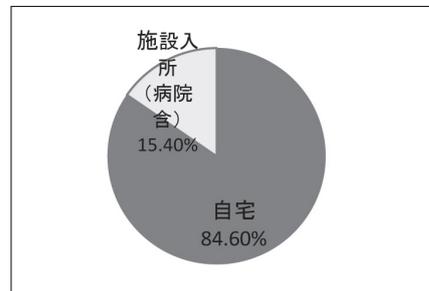
⑱-3-5 所在の傾向

所在については、最も多いのは「自宅」であり11件(84.6%)と多くを占めている。他に「施設入所(病院含)」が2件(15.4%)となっている。

表⑱-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	11	2	0	0	0	13
割合	84.60%	15.40%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑱-3-5 所在



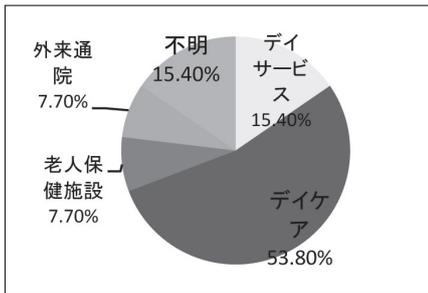
⑱-3-6 利用サービスの傾向

利用サービスについての傾向は、「デイケア」が7件(53.8%)と最も多く、次いで、「不明」、「デイサービス」が2件(15.4%)、「老人保健施設」、「外来通院」、が1件(7.7%)となっている。

表⑱-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院		
件数	0	2	7	0	0	1	0		
割合	0.00%	15.40%	53.80%	0.00%	0.00%	7.70%	0.00%		
	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サ ービス複数利用	不明	合計	
	0	0	1	0	0	0	2	13	
	0.00%	0.00%	7.70%	0.00%	0.00%	0.00%	15.40%	100.00%	

図⑱-3-6 利用サービス



## ⑱ 若年認知症

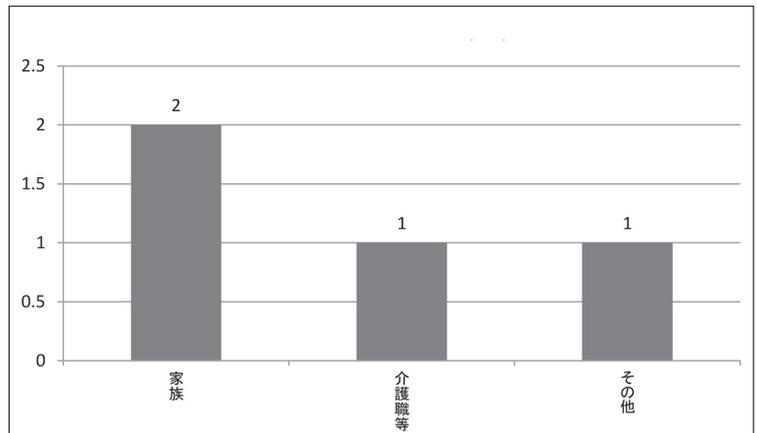
### ⑱-1 他の研究内容との重複

若年認知症に関連する研究4件のうち重複している研究内容では、「家族」が2件(50.0%)であり、次いで「介護職等」、「その他」が1件(25.0%)となっている。そのほかの研究方法の重複はなかった。

表⑱-1 他の研究内容との重複件数 (N=4)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
家族	2	50.00%
介護職等	1	25.00%
その他	1	25.00%

図⑱-1 他の研究内容との重複件数 (N=4)



### ⑱-2 研究方法の傾向

#### ⑱-2-1 研究タイプ1の傾向

若年認知症に関する研究4件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「実態把握研究」が4件全てであり、「探索的研究」はなかった。

表⑱-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	4	100.00%
探索的	0	0.00%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	4	100.00%

図⑱-2-1 研究タイプ1



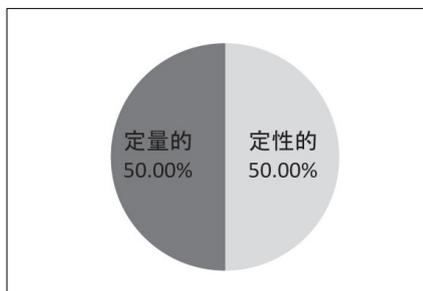
### ⑭-2-2 研究タイプ2の傾向

若年認知症に関する研究4件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定性的研究」、「定量的研究」ともに2件であり、それぞれ50.0%であった。

表⑭-2-2研究タイプ2

	件数	割合
定性的	2	50.00%
定量的	2	50.00%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	4	100.00%

図⑭-2-2研究タイプ2



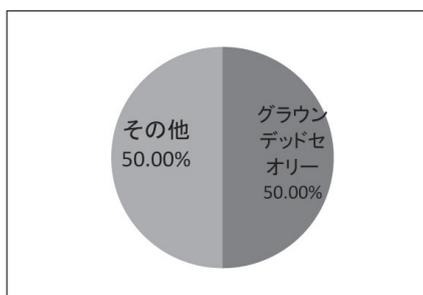
### ⑭-2-3 定性的研究の種類

定性的研究種類について、「グラウンデッドセオリー」、「その他」がともに1件ずつのみであり、それぞれ50.0%となっている。他の研究種類はなかった。

表⑭-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	0	0.00%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	1	50.00%
ケーススタディ	0	0.00%
その他	1	50.00%
合計	2	100.00%

図⑭-2-3 定性的研究の種類



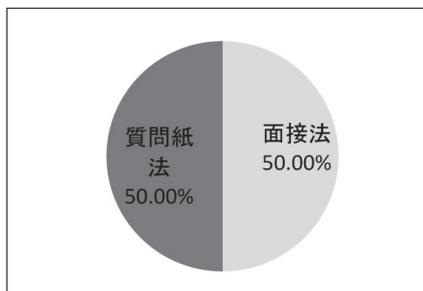
### ⑭-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、「面接法」、「質問紙法」がともに2件であり、それぞれ50.0%であった。他の研究方法はなかった。

表⑭-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	0	0.00%
面接法	2	50.00%
質問紙法	2	50.00%
実験法(介入)	0	0.00%
その他	0	0.00%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	4	100.00%

図⑭-2-4 研究方法



### ⑭-2-5 観察法の種類

観察法の種類について、観察法を用いた研究がなかったため、種類の結果は得られなかった。

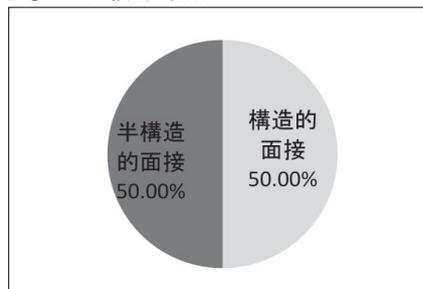
### ⑭-2-6 面接法の種類

「面接法」を用いた研究2件のうち、「構造的面接」、「半構造的面接」がともに1件(50.0%)のみであった。

表⑭-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	1	50.00%
半構造的面接	1	50.00%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
不明	0	0.00%
合計	2	100.00%

図⑭-2-6 面接法の種類



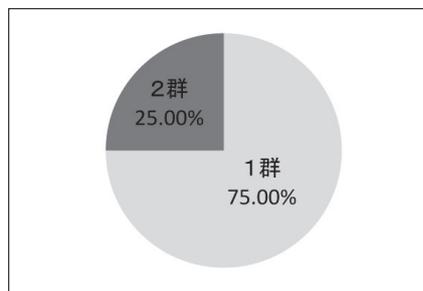
### ⑭-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、「1群」が3件(75.0%)となっており、次いで「2群」が1件(25.0%)となっている。

表⑭-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	3	75.00%
2群	1	25.00%
3群	0	0.00%
4群	0	0.00%
合計	4	100.00%

図⑭-2-7 対象群数



⑬-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「その他」のみであり、4件となっている。「全国対象」はなかった。

表⑬-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	0	0.00%
その他	4	100.00%
合計	4	100.00%

図⑬-2-8 対象範囲



⑬-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

若年認知症の研究において、実施期間の平均は4件中、195.00日であり、研究地域数の平均は4件中、1.00地域となっている。事業所数の平均は2件中、1.00事業所となっており、対象者人数の平均は54件中、2082.75人となっている。

表⑬-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	4	180	240	195	30
研究地域数	4	1	1	1.00	0
事業所数	2	1	1	1.00	0
対象者人数 (人)	4	6	8217	2082.75	4089.674

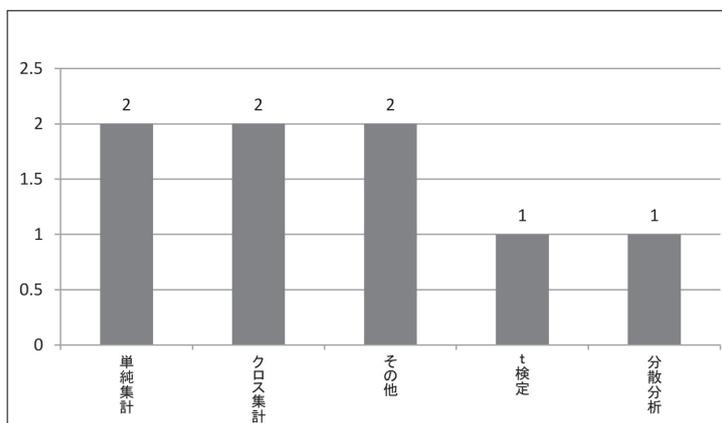
⑬-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」、「クロス集計」、「その他」がそれぞれ2件(50.0%)となっており、次いで「t検定」、「分散分析」がともに1件(25.0%)となっている。

表⑬-2-10 分析方法の件数 (N=4)

分析方法分類	件数	重複割合 (%)
単純集計	2	50.00%
クロス集計	2	50.00%
その他	2	50.00%
t検定	1	25.00%
分散分析	1	25.00%

図⑬-2-10 分析方法の件数 (N=4)



⑩ - 3 対象者属性の傾向

⑩ - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、3件の対象者の平均年齢は54.367歳であり、標準偏差は6.5041歳である。最大値は61.0歳、最小値は48.0歳となっている。

表⑩ -3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
若年認知症	54.367	3	6.5041	48.0	61.0

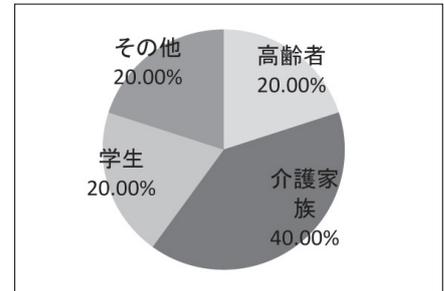
⑩ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「介護家族」が最も多く2件(40.0%)となっている。次いで「高齢者」、「学生」、「その他」がそれぞれ1件(20.0%)となっている。

表⑩ -3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	1	2	0	1	1	5
割合	20.00%	40.00%	0.00%	20.00%	20.00%	100.00%

図⑩ -3-2 対象者属性



⑩ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者である1件のみであり、高齢者属性の傾向は「認知症」のみである。

表⑩ -3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	1	0	0	0	1
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑩ -3-3 高齢者属性



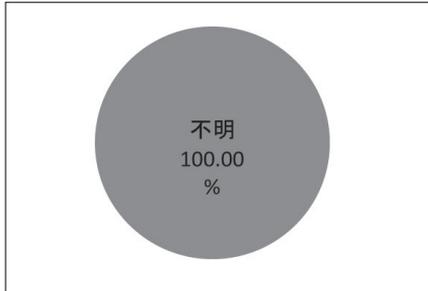
⑭-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、高齢者属性に「認知症」がある1件において、「不明」のみである。

表⑭-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	0	0	0	0	1	0	1
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%

図⑭-3-4 認知症種類



⑭-3-5 所在の傾向

所在については、研究が1件であり、「自宅・施設」のみである。

表⑭-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	0	0	0	1	0	1
割合	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%

図⑭-3-5 所在



### ⑭-3-6 利用サービスの傾向

利用サービスについて、研究が1件のみであり、「在宅系サービス複数利用」のみである。

表⑭-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院		
件数	0	0	0	0	0	0	0		
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%		
	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サー ビス複数利用	不明	合計	
	0	0	0	0	1	0	0	1	
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%	

図⑭-3-6 利用サービス



### ⑭-3-7 職員種別の傾向

職員種別について、職員の内訳について記載のある研究はなかった。

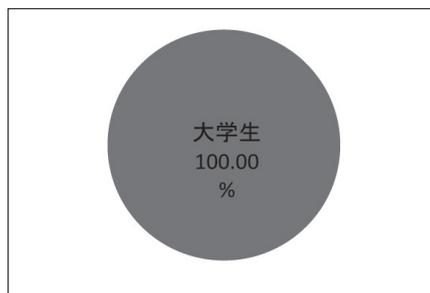
### ⑭-3-8 学生種別の傾向

学生種別について、研究が1件のみであり、種別は「大学生」のみである。

表⑭-3-8 学生種別

	大学生	専門学校・ 短大生	高校生	中学生	小学生	その他	合計
件数	1	0	0	0	0	0	1
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑭-3-8 学生種別



## ⑳ 介護職等

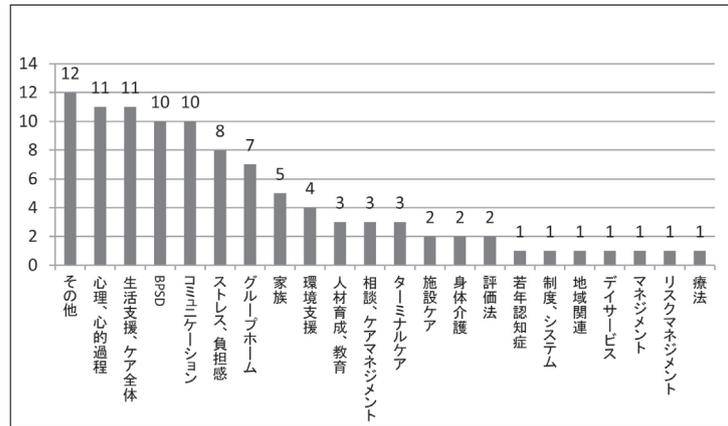
### ㉑-1 他の研究内容との重複

介護職等に関連する研究62件のうち重複している研究内容では、最も多いのは「その他」が12件で19.4%となっている。次いで「心理、心的過程」、「生活支援、ケア全体」がともに11件(17.7%)となっている。さらに、「BPSD」、「コミュニケーション」がともに10件(16.1%)となっている。

表㉑-1 他の研究内容との重複件数 (N=62)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
その他	12	19.40%
心理、心的過程	11	17.70%
生活支援、ケア全体	11	17.70%
BPSD	10	16.10%
コミュニケーション	10	16.10%
ストレス、負担感	8	12.90%
グループホーム	7	11.30%
家族	5	8.10%
環境支援	4	6.50%
人材育成、教育	3	4.80%
相談、ケアマネジメント	3	4.80%
ターミナルケア	3	4.80%
施設ケア	2	3.20%
身体介護	2	3.20%
評価法	2	3.20%
若年認知症	1	1.60%
制度、システム	1	1.60%
地域関連	1	1.60%
デイサービス	1	1.60%
マネジメント	1	1.60%
リスクマネジメント	1	1.60%
療法	1	1.60%

図㉑-1 他の研究内容との重複件数 (N=62)



### ㉑-2 研究方法の傾向

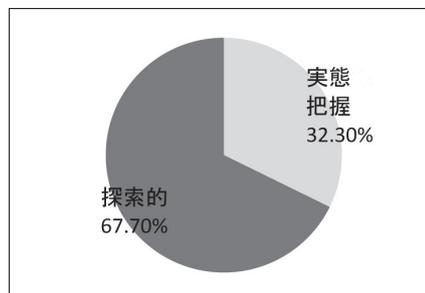
#### ㉑-2-1 研究タイプ1の傾向

介護職等に関する研究62件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が42件(67.7%)であり、「実態把握研究」は20件(32.3%)となっている。「探索的研究」のほうが多いことがうかがえる。

表㉑-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	20	32.30%
探索的	42	67.70%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	62	100.00%

図㉑-2-1 研究タイプ1



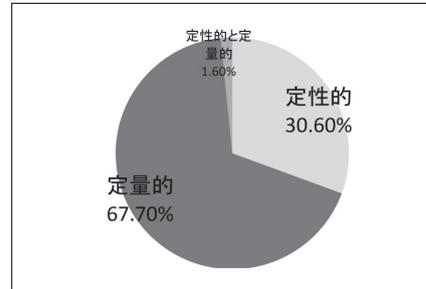
### ⑩-2-2 研究タイプ2の傾向

介護職等に関する研究62件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が42件(67.7%)となっており全体の2/3を超えている。「定性的研究」は19件で30.6%、「定性的と定量的」が1件で1.6%となっている。

表⑩-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	19	30.60%
定量的	42	67.70%
定性的と定量的	1	1.60%
合計	62	100.00%

図⑩-2-2 研究タイプ2



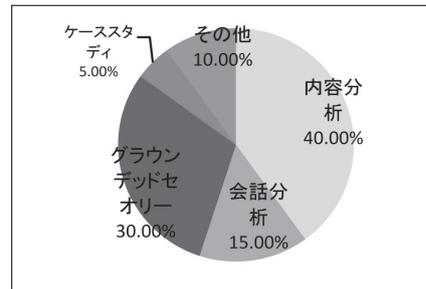
### ⑩-2-3 定性的研究の種類

定性的研究を含んだ研究20件のうち、その研究種類は「内容分析」が8件で40.0%となっており、次いで「グラウンデッドセオリー」が6件(30.0%)となっている。さらに、「会話分析」が3件(15.0%)、「その他」が2件(10.0%)、「ケーススタディ」が1件(5.0%)となっている。

表⑩-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	8	40.00%
会話分析	3	15.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	6	30.00%
ケーススタディ	1	5.00%
その他	2	10.00%
合計	20	100.00%

図⑩-2-3 定性的研究の種類



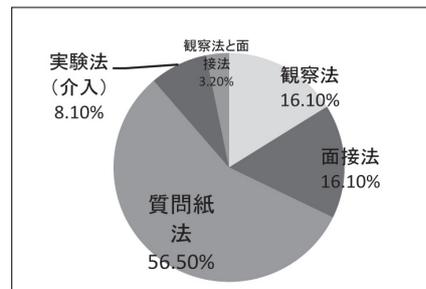
### ⑩-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、最も多いのは「質問紙法」であり、35件(56.5%)と全体の半数を超えている。次いで「観察法」、「面接法」がともに10件(16.1%)であり、「実験法(介入)」が5件(8.1%)、「観察法と面接法」が2件(3.2%)となっている。

表⑩-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	10	16.10%
面接法	10	16.10%
質問紙法	35	56.50%
実験法(介入)	5	8.10%
その他	0	0.00%
観察法と面接法	2	3.20%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	62	100.00%

図⑩-2-4 研究方法



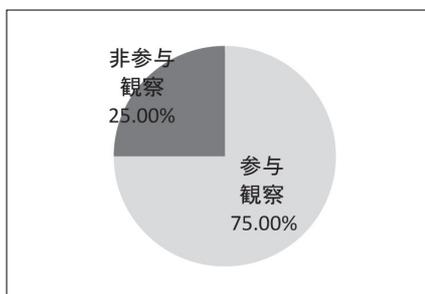
### ⑩-2-5 観察法の種類

観察法を用いた研究12件のうち、最も多いのは「参与観察」であり、9件(75.0%)であり、多くが「参与観察」となっている。「非参与観察」が3件(25.0%)となっている。

表⑩-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	9	75.00%
非参与観察	3	25.00%
その他	0	0.00%
合計	12	100.00%

図⑩-2-5 観察法の種類



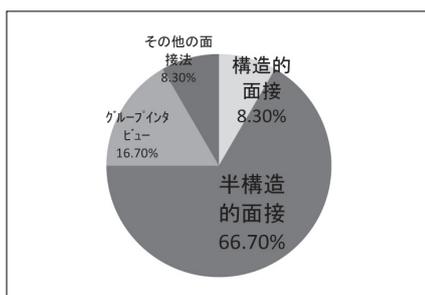
### ⑩-2-6 面接法の種類

「面接法」を用いた研究12件のうち、「半構造的面接」が8件(66.7%)であり、「グループインタビュー」が2件(16.7%)、「構造的面接」、「その他の面接法」が1件(8.3%)となっている。

表⑩-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	1	8.30%
半構造的面接	8	66.70%
グループインタビュー	2	16.70%
その他	1	8.30%
合計	12	100.00%

図⑩-2-6 面接法の種類



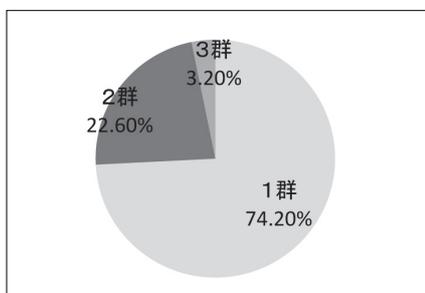
### ⑩-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、「1群」が46件(74.2%)となっており、全体の3/4近くを占めている。次いで「2群」が14件(22.6%)、「3群」が2件(3.2%)となっている。

表⑩-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	46	74.20%
2群	14	22.60%
3群	2	3.20%
4群	0	0.00%
合計	62	100.00%

図⑩-2-7 対象群数



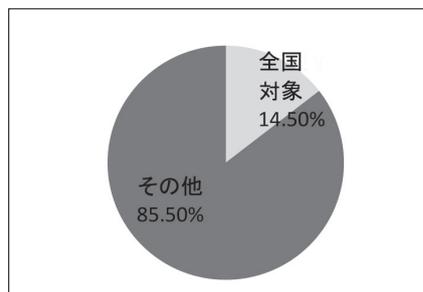
⑩-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲については「全国対象」が9件(14.5%)であり、「その他」が53件(85.5%)であり、ほとんどが「その他」である。

表⑩-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	9	14.5%
その他	53	85.5%
合計	62	100.0%

図⑩-2-8 対象範囲



⑩-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

介護職等の研究において、実施期間の平均は41件中、77.44日であり、研究地域数の平均は39件中、2.08地域となっている。事業所数の平均は50件中、109.42事業所となっており、対象者人数の平均は62人中、215.98人となっている。

表⑩-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	41	1	360	77.44	91.741
研究地域数	39	1	37	2.08	5.769
事業所数	50	1	3557	109.42	506.756
対象者人数 (人)	62	1	3557	215.98	470.615

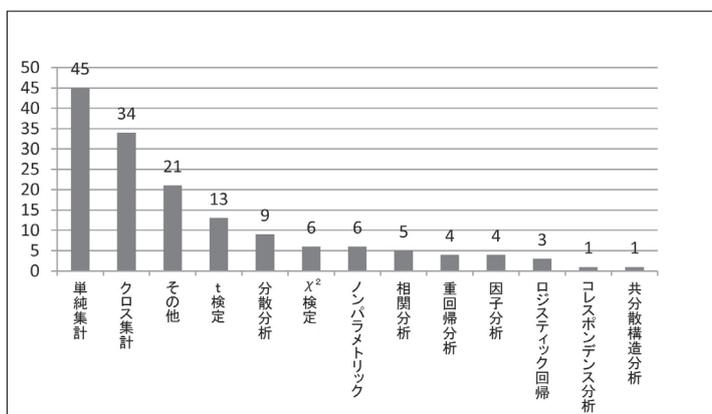
⑩-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が45件であり、72.6%となっている。次いで、「クロス集計」が34件(54.8%)となっており、さらに「その他」が21件(33.9%)、「t検定」が13件(21.0%)、「分散分析」が9件(14.5%)、と続いている。

表⑩-2-10 分析方法の件数 (N=62)

研究内容	件数	重複割合 (%)
単純集計	45	72.60%
クロス集計	34	54.80%
その他	21	33.90%
t検定	13	21.00%
分散分析	9	14.50%
$\chi^2$ 検定	6	9.70%
ノンパラメトリック	6	9.70%
相関分析	5	8.10%
重回帰分析	4	6.50%
因子分析	4	6.50%
ロジスティック回帰	3	4.80%
コレスポンデンス分析	1	1.60%
共分散構造分析	1	1.60%

図⑩-2-10 分析方法の件数 (N=62)



⑳ - 3 対象者属性の傾向

⑳ - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、48件の対象者の平均年齢は49.858歳であり、標準偏差は21.6040歳である。最大値は92.0歳、最小値は23.0歳となっている。

表⑳ -3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
介護職員	49.858	48	21.6040	23.0	92.0

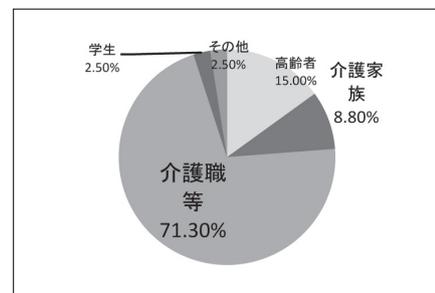
⑳ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「介護職等」が最も多く57件(71.3%)となっている。次いで「高齢者」が12件(15.0%)となっている。さらに、「介護家族」が7件(8.8%)、「学生」、「その他」がともに2件(2.5%)となっている。

表⑳ -3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	12	7	57	2	2	80
割合	15.00%	8.80%	71.30%	2.50%	2.50%	100.00%

図⑳ -3-2 対象者属性



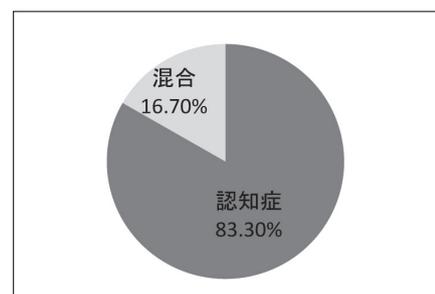
⑳ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者である12件の中で、高齢者属性は「認知症」が10件(83.3%)と最も多く、次いで「混合」が2件(16.7%)となっている。他の高齢者属性はなかった。

表⑳ -3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	10	0	0	2	12
割合	83.30%	0.00%	0.00%	16.70%	100.00%

図⑳ -3-3 高齢者属性



#### ⑳-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、高齢者属性に「認知症」および「混合」の10件において、全てが「不明」のみであり、他の種類についてはなかった。

表⑳-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	0	0	0	0	10	0	10
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%

図⑳-3-4 認知症種類



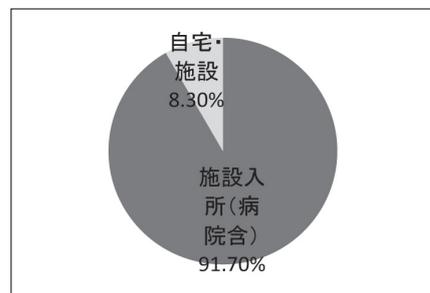
#### ⑳-3-5 所在の傾向

所在については、最も多いのは「施設入所(病院含)」であり11件(91.7%)とほとんどを占めている。他に「自宅・施設」が1件(8.3%)となっている。

表⑳-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	0	11	0	1	0	12
割合	0.00%	91.70%	0.00%	8.30%	0.00%	100.00%

図⑳-3-5 所在



### ⑩-3-6 利用サービスの傾向

利用サービスについての傾向は、「老人保健施設」が6件(50.0%)と最も多く、次いで、「グループホーム」が2件(16.7%)、「老人ホーム」、「病院入院」、「在宅系サービス複数利用」、「不明」がそれぞれ1件(8.3%)となっている。

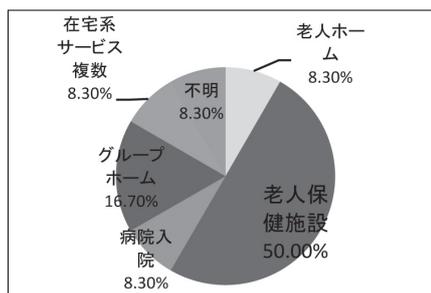
表⑩-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	0	0	0	0	1	6	1
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	8.30%	50.00%	8.30%

	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス複数利用	在宅系サービス複数利用	入所・在宅系サービス複数利用	不明	合計
件数	2	0	0	0	1	0	1	12
割合	16.70%	0.00%	0.00%	0.00%	8.30%	0.00%	8.30%	100.00%

図⑩-3-6 利用サービス



### ⑩-3-7 職員種別の傾向

職員種別について、最も多いのは「介護職員」であり、27件(47.4%)と全体の半分近くを占めている。次いで、「看護師」であり、14件(24.6%)、「複数職種」が8件(14.0%)、「介護・看護職」が5件(8.8%)となっている。

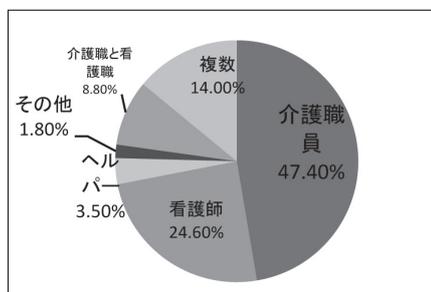
表⑩-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	27	0	14	0	0	2	1
割合	47.40%	0.00%	24.60%	0.00%	0.00%	3.50%	1.80%

	介護・看護職	複数職種	合計
件数	5	8	57
割合	8.80%	14.00%	100.00%

図⑩-3-7 職員種別



### ⑳-3-8 学生種別の傾向

学生種別について、学生種別のあった研究は2件であり、「大学生」、「専門学校・短大生」がともに1件(50.0%)となっている。

表⑳-3-8 学生種別

	大学生	専門学校・短大生	高校生	中学生	小学生	その他	合計
件数	1	1	0	0	0	0	2
割合	50.00%	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑳-3-8 学生種別

